

YOKOHAMA ASAHI ROTARY CLUB WEEKLY



2024-25年度 RI会長／ステファニー・アーチック
RI.D2590ガバナー／長戸はるみ
横浜旭RC会長／北澤 正浩

ガールスカウト
とクリーン作戦



第11回 チャリティーコンサート

国際ロータリー第2590地区

横浜旭ロータリークラブ

事務所 横浜市旭区万騎が原33／〒241-0836
TEL.080-1215-6668／FAX.045-362-0024
<http://yokohamaasahirc.org>
Email: asahirc@titan.ocn.ne.jp
例会場 二俣川駅ジョイナステラス3／4Fコミュニティサロン
例会日 月3回水曜日／12時30分～1時30分

2025年5月14日 第2579回例会 VOL.56 No.32

■司会 SAA 関口 大樹

■開会点鐘 会長 北澤 正浩

■出席報告

会員数	21名	本日の出席数	14名
本日の出席率	70.00%	修正出席率	71.43%

■本日の欠席者

日向、草柳、中谷、二宮、宋、関澤

■オンライン出席者 市川、福村

■会長報告 北澤 正浩

皆さま、こんにちは。

皆さまのお手元にもメール等で報告が届いているかと思いますが、去る4月14日から4日間にわたり、2025年規定審議会が開催されました。世界各地のロータリー地区を代表する約480名のロータリアンがシカゴに集まり、国際ロータリーの組織規定の変更に関する78の案件について熱心な議論が交わされたとのことでした。

その中でも、我々のクラブにも関係する項目をいくつかご紹介いたします。

まず、人頭分担金の増額についてです。審議会では45分間にわたる討論の末、国際ロータリーに納める人頭分担金の増額が承認されました。これにより、会費は2025-26年度の82ドル（1ドル157円換算で12,874円）から、

2026-27年度には85ドル50セント（13,423円）へと引き上げられます。その後、2年目・3年目にはそれぞれ3ドル75セントずつ増額される予定です。

増額を支持する意見としては、RI（国際ロータリー）がコスト削減の努力を続けていくという姿勢が示されたこと。今回の年間約4%の増額率は、2024年における世界的な物価上昇率を下回っているという主張です。

とはいえ、率直に言って負担が増えることには懸念があります。会費の増額は会員の負担を大きくし、退会者の増加につながる恐れがありますし、新規入会の大きな障害にもなっています。3カ年にわたる増額計画が承認されたことについては、会員増強を求める一方で、その環境をより厳しくするような判断であり、矛盾を感じざるを得ません。

次に、名誉会員の人数制限に関する案件です。クラブの名誉会員数を正会員数の5%までに制限するという提案もなされましたが、これは否決されました。

反対派は、多くのクラブが名誉会員制度を通じて元会員との絆を保っており、そうした名誉会員の多くが、長年の経験と知識を持つ貴重な存在であることを強調しました。

私も、ロータリーの根幹は人と人との繋がりにあると考えており、こうした意見には深く共感いたします。

また、我々のクラブに直接の影響はありませんが、興味深い案件として、新たに設立されるロータリークラブの加盟に必要な最低会員数を20名から15名に減らすという案が承認されました。

提案者たちは、これによりクラブ設立のハードルが下がり、ロータリーの成長と会員拡大につながると述べています。

世界的に会員数の減少が続く中、このような柔軟な対応は時代の流れとして受け入れざるを得ないのかもしれません。

このように、規定審議会では私たちの活動にも少なからず影響を与える決定がなされています。今後も情報を共有しながら、よりよいクラブ運営を目指していきたく思いますので、どうぞご協力をよろしくお願いいたします。

■ニコニコ BOX

北澤 正浩／本日のクラブ協議会よろしくお願いいたします。

中島 徹／クラブ協議会よろしくお願いいたします。

関口 大樹／本日はクラブ協議会よろしくお願いいたします。

佐藤 真吾／今年度最後のクラブ協議会です。よろしくお願いいたします。

田川 富男／①本日のクラブ協議会、委員の皆さんよろしくお願いいたします。②大正生まれの母も100歳を迎え、紀寿（きじゅ）お祝いを致しました。

安藤 公一／本日のクラブ協議会、宜しく願います。

■クラブ協議会

▷クラブ管理運営委員会 田川 富男

▷親睦委員会／田川 富男

現在、予定通りに親睦の開催を実施しており、1月にて東日本大震災チャリティーコンサートのサポートをさせて頂きました。そして、3月

にて第2回目の情報集会を3グループに分かれて実行し、4月の例会時に発表して頂きました。また、6月の最終例会として二俣川大瀧飯店にて会長・幹事の慰労会を計画しております。全員の参加にてお願い致します。

▷プログラム委員会／五十嵐 正

今年度は例会が月3回のペースで、合計36回の実施を見込んでいます。その内訳はクラブ協議会以外が10回、クラブ行事が6回、講話が10回、職業奉仕等が4回、フォーラムが2回となっており、フォーラムがやや多いかなという印象もあります。公式訪問などの日程変更を除けば、おおむね予定通り進行しています。

特に2月14日に開催されたイタリアの防災講演会は印象的で、その内容が「ロータリー友の特集」にも取り上げられ、反響がありました。

▷会員増強委員会／目黒 恵一

- 1、目標
- 2、会員の増強策
- 3、現会員の退会防止策

会員が増えないのであれば、現会員の退会防止に力を入れるべきだと思います。

- ①会費が高い（米山、財団の寄付金と会費から補填する、しない。）
- ②例会場の件
- ③食事の件
- ④クリスマス例会の会場の設定及び、内容を良くお互い話し合って行動する事だと思います。

▷公共イメージ委員会／新川 尚

今年度もチャリティーコンサートや二俣川クリーン作戦等、様々な奉仕活動に際しタウンニュースやYCVの取材を要請するなど、広報活動を行ってまいりました。

しかし成果は十分とは言えず、さらなる活動強化が必要であると感じました。

また、地区ポリオディイベントへの会員の参加が少なかったことも課題の一つであると考えます。

友誌の紹介は多少の順番の変更はありましたが、概ね予定通り行うことが出来ました。

《職業奉仕》 副委員長／安藤 公一

1/8 職業奉仕フォーラムにおいて地区職業奉仕委員長桑原氏の卓話を頂いた

12/18 夜間例会にて一般財団法人「かけはし」代表広瀬氏の卓話を頂き、寄付金を贈呈した。

- ・神奈川県立がんセンターとの活動再開に向けて行動する。→5/7に院長より卓話を頂き、今後の共同作業の可能性を探していく
- ・中学校、高等学校への職業講話に向けて行動する。→継続ワーク

《社会奉仕》 副委員長／岡田 隆

1月のコンサート以降、大きな活動はありませんが、秋には10月13日にフォルテ祭の開催予定のイベントがあります。ご協力いただける方がいれば、ぜひよろしく願いいたします。

旭警察署、署長が異動により交代されていますが、私はご挨拶できておりません。

北澤会長が今年度より旭警察署の協議会会長に内定されたと聞いておりますので、今後太いパイプ役としてお願いしたいと思います。

《国際奉仕活動計画書》 副委員長／新川 尚

地区からの要請でミャンマー地震災害への募金協力。

あさひ区民まつりにてNPO法人アクト・フォー・チャイルドへの協力

以外では特に活動出来ていません。

《青少年奉仕活動計画書》 副委員長／中谷逸希

・ガールスカウト第102団に対する支援と共同活動→4月12日に実施した

・県立看護福祉学校（本年4月より二俣川高等学校に改編）インターアクトクラブ設立に向けての準備活動→校長、教頭先生と顔合わせを実施した。市川幹事のご紹介により実現。同校校長の卓話を3/18に実施した

・県立旭高校学校運営委員会への運営委員としての参加→参加した

▷米山記念奨学委員会／岡田 隆

現在の寄付金額 320,000円

達成率 76.2%

目標不足額 100,000円

会員の皆様のご厚意に感謝申し上げるとともに、引き続き、ご理解とご協力をお願いいたします。

▷災害対策委員会報告 委員長 増田嘉一郎

1 令和7年3月5日のクラブフォーラムは、「災害支援基金に関するクラブ細則」について、現行細則の内容が会員の認識と一致しているかを協議した。クラブフォーラムにおける主な意見は、次のとおりである。

A：これまで旭区で資金を出すような災害がなかったものであり、基金は有効的に使うべきであるから、軽々に出すのは如何なものかと思っている。

B：出来た当初は地元の災害に備えようという趣旨で作られたと思う。他地域の災害より地元を重視して備えるでいいのではないだろうか。

C：基本的には今の規定の形でいいと思う。被災地のニーズへの働き方として、何か方法に手詰まり感があると思う。

D：設立当初から50%は地元に着るとある。その他の地域の災害に関しては情報収集をして、被災地RCからの要請で支援が必要であれば支援をという形でよいと思う。

2 その結果、4月8日、現行細則の内容を改正する必要はないが、地元旭区内への拠出金支出と、他のロータリークラブへの拠出金の支出とを手続上明確に峻別できるように、クラブ細則を改正することを理事会に提案した。

理事会の承認が得られれば、総会に諮ってもらうことになる。

▷チャリティーコンサート部会／新川 尚

1月26日に無事開催することが出来ました。詳細は配布した報告書をご参照ください。今回の募金は、73,871円でした。

皆様のご協力に感謝申し上げます。

▷三ヵ年プロジェクト／五十嵐 正

本来であればプロジェクト委員会として正式に発表すべき内容ですが、今回は方向性の共有という形でご説明します。

我がクラブでは、災害時に地域に温かい食事を提供できる体制を整えるという大きな目標を

プロジェクトに掲げています。それは行政との連携による専門的な支援組織の設立を視野に入れていましたが、この度横浜市でイタリア TKB ユニット購入が決まり、避難所学会の水谷理事より、ヒトの組織形成につき、ロータリーの協力をお願いしたい旨連絡がありました。これは RC の専門家集団と特長を生かし、ユニットの運営に協力することであり、この事が、当初の地域に災害時に温かい食事を提供する目標と重なり、こちらに協力する方が、現実的であり効果的と考え当初の目標を TKB ユニット運営協力に切り替えます。

ただこれは地域密着の活動というより、RC

の組織を活動する内容、具体的には横浜旭 RC 単クラブより、第 5 グループ又は地区での活動が主体となりそうです。

そこで三カ年プロジェクトの大眼目としての地域密着型の活動として新たに防災エコバックの普及を通して、地域にクラブの存在意義を高めていく事業を加える事のご提案をさせていただきます。

これは日常的に使用できるエコバッグに防災頭巾の機能を持たせたエコバックを試作、会員間で試作品の意見調整を行い、それを元に障がい者施設で製作を行い、地域へ広報、事業への参加協力を募集するという地域参加型・福祉連

携型の取り組みをご提案致します。初期資金はクラブが支援し、その後は地域での販売や寄付を通じて継続可能なモデルを目指します。

今後は、試作品を作り、会員のご家庭や地域企業にアンケートを行い、バッグのデザインや使い勝手などをフィードバックとして集めていき、そして保育園・小学校・福祉施設などへの寄贈も視野に入れ、横浜市や地域ボランティア団体と連携しながら進めていきます。

このように、プロジェクトの方向性については多少の修正を加えながら、より地域に根ざした形で進めていきたいと考えております。今後とも皆さまからのご意見・ご協力をよろしくお願いいたします。

2024~2025 年度 横浜旭ロータリークラブ		
第十七回 理事会議事録		
日時	令和 7 年 5 月 7 日 (水)	出席者
	13 時 30 分より	北澤正浩 安藤公一 五十嵐正 佐藤真吾 田川富男
場所	例会場	関口大樹 岡田隆 新川尚 市川慎二
【報告事項】		
地区関係		
1 5 月 15 日 (木) 18 時～ 新旧会長幹事会 新横浜グレイスホテル 4 階サフィア		
クラブ関係		
1 5 月 14 日 (水) 第 4 回クラブ協議会 例会場		
【審議事項】		
1 5 月 21 日の例会変更について		
夜間サンハート会議室の予定を、通常時間で「みなまき会議室」で開催とする。		
今回は会場などの試験的に実施し、食事は「かまどや」に依頼済み。		
※ みなまき会議室の情報として		
・第 3 水曜日の夕方は、別団体が常時予約されていて使用できない。		
・会場の予約は直接電話で担当者に伝える。		
ふたば薬局 電話番号 045・365・5037 担当者 井上・西村		
・食事提供を依頼できる隣のお蕎麦屋（満月屋）の定休日が第 3 水曜日。		
満月屋 電話番号 045・362・6577		
・お蕎麦屋で頼む際は、テイクアウトにしてもらい自分たちで会議室まで運ぶ		
(ゴミは各自持ち帰り)		
・中華（福宝）は水曜日が定休日となっている。		
2 最終例会場所について		
移動例会で食事をしながら行う。18 時 30 分～大龍飯店 1 人 5000 円		
3 その他		
次年度職業奉仕委員長が、県立がんセンターのソーシャルワーカーの緒方文子さんに挨拶に伺いながら「親ががんである子どものサポート」クライムへの活動再開に向けて進めていく。		
承認		